

ら は た 探訪 歴史 クラブ 其の47

TAHARA
History Inquiry
Club

埋蔵金!? 発見される

時は江戸時代中ごろ、延享3年（1746年）1月24日、赤羽根村で、組頭の平兵衛が六兵衛の旧屋敷跡で屋敷境の土手を掘ったところ、大量の古銭が出土しました。その数3万9421枚でした。場所は現在の赤羽根町中村地区です。

この事件は田原藩の日記に詳しく記されています。藩は、うわさを聞きつけた村人が古銭を拾い集めてしまったため、庄屋のところを集めさせるよう申し伝えました。発見場所の六兵衛家は途絶えていたため、その

所有について公儀に相談するなど大騒ぎでした。また役人は、昔の人が物騒なので埋め隠したものだとか、難破船の銭を隠していたものなどと思いをめぐらせました。

日記には銭の種類とその数が記録されています。すべてが中国銭で、一番古いもので開元通宝（唐・621年）から新しいものは大中通宝（明・1361年）まであります。北末（960〜1126年）時代の銭が半数を占め、江戸



赤羽根町中村地区で発見された出土銭の見取図。黒丸が見つかった場所

時代に作られる寛永通宝が流通する以前に人気の高かった永楽通宝（明・1408年）がありませんから、おそらく南北朝時代のころに埋められたのではないのでしょうか。古文書には「酒樽」「桶」に入っていたというのですから、木製の桶だったのでしょう。

ほかに、貞享3年（1686年）10月12日、赤羽根村の清助の家で約9貫匁（30kg余）の重さの銭入カメが掘り出された記録があります。しかし清助は12月になるまで黙

っていたため、藩の役人に怒られてしまいました。これについては、残念ながら銭の種類や数が記されていません。また、享和元年（1801年）10月17日、田原藩士森田小伝治屋敷（田原市役所の西）で古銭6〜7貫（約25kg）が見つかっています。おそらく1000枚前後でしょう。さらに野田町では大正時代、「かます2、3杯」の古銭が工事中に見つかっています。「かます」の大きさはわかりませんが、土運びの竹箕くらいとすれば、赤羽根町中村地区と同じ程度の量ではないでしょう。



（参考写真）岸和田市で発見された銭入り壺。約1万枚発見されました。竹箕と大きさを比べてみましょう

か。皆さんも、この銭の量がどれくらいか想像してみてください。大量の銭が埋められたことには二つの説があります。一つは財産管理のため、もう一つはまじないのためです。赤羽根の事例はいつたいどちらだったのでしょうか。南北朝の激動の時代に、自分の財産を守るために埋めた、とすると面白いのですが。また、銭の大量出土が赤羽根地域に多いのは何故でしょうか。財産管理にせよ、まじないにせよ、赤羽根ではその時代に特殊な事情があったのは間違いありません。興味は尽きませんね。（増山）

生涯学習課 ☎ 23局3531